

2015年5月29日口永良部島噴火の屋久島における火山灰分布

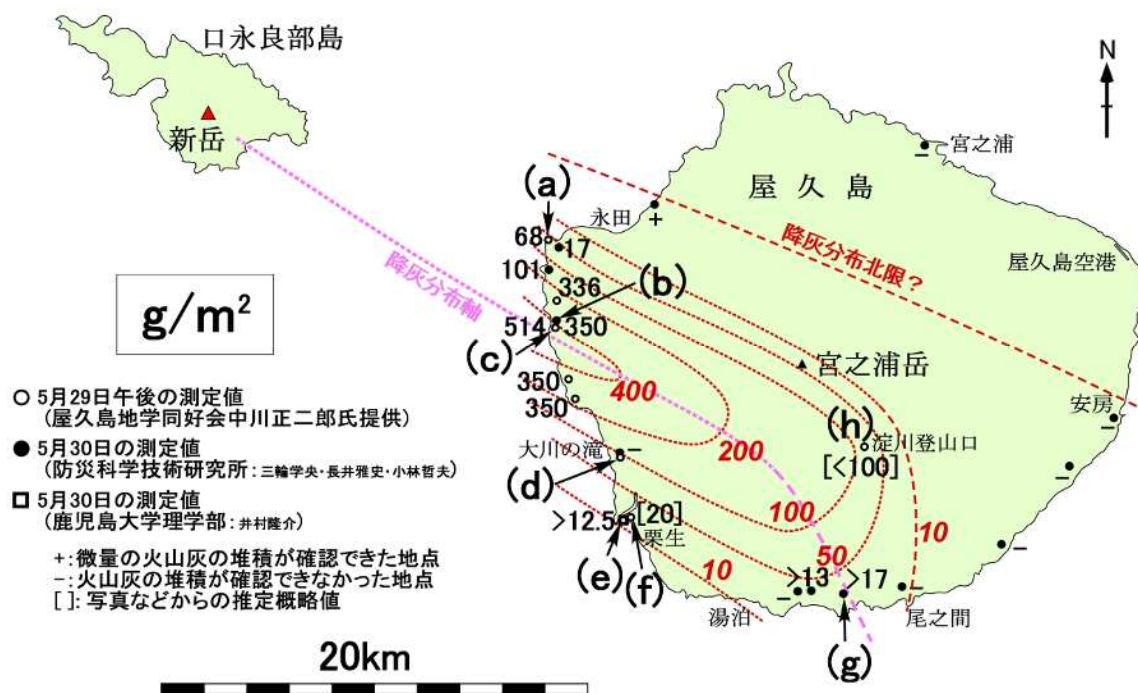
口永良部島火山 2015 年 5 月 29 日噴火の降下火山灰について、屋久島で分布調査を行った。

屋久島地学同好会の中川正二郎氏から産総研に提供された 5 月 29 日午後の屋久島西部の調査結果によると、永田岬から栗生付近にかけて火山灰の堆積が確認された(第 1 図)。川原付近(火口から約 19km)では堆積量は $514\text{g}/\text{m}^2$ であった(第 2 図(c))。5 月 30 日に防災科研が屋久島を一周する形で調査した結果では、北西部から南部にかけての地域で火山灰の堆積が確認された(第 1 図)。南部の恋泊(火口から約 38km)では一部が雨に流されていたが、最大で $17\text{g}/\text{m}^2$ の火山灰の残存を確認した(第 2 図(g))。また、鹿児島大学が屋久島南西部で実施した調査では降雨前の栗生港で $12.5\text{g}/\text{m}^2$ 以上であった(第 2 図(e))。

住民に聞き取りした結果では、降灰の北限は永田と安房を結ぶ線付近で、島の東部～南東部でも少量の降灰があったという。したがって東部でも火山灰が確認されることが期待されたが、30 日午前 11 時頃からの激しい降雨の影響で調査時までにはほぼ失われたとみられる。屋久島中央部の山岳地帯においても顕著な降灰があった模様であるが、定面積採集はされていない。しかし 5 月 29 日に撮影された写真を検討した結果、淀川登山口において $100\text{g}/\text{m}^2$ 弱程度の火山灰の堆積があったと推測される(第 2 図(h))。

これらの調査結果をまとめると、5 月 29 日噴火の降灰軸は屋久島の西部から南部にかけて横切っていたと推測される(第 1 図)。口永良部島に近い島の西端付近の降灰軸上では $500\text{g}/\text{m}^2$ 程度の、遠い南端付近の軸上では数 $10\text{g}/\text{m}^2$ 程度の火山灰が堆積したとみられる。

謝辞 屋久島地学同好会の中川正二郎氏には貴重な調査結果を提供していただきました。屋久島各地の住民の皆様には降灰状況について情報を提供していただきました。記して感謝いたします。



第 1 図. 調査地点と火山灰堆積量の分布図

図中の(a)~(h)は第 2 図の(a)~(h)に対応する。



(a) 永田岬灯台における火山灰の堆積(68g/m²)。中川正二郎氏撮影



(b) 西部林道, 川原付近の転石上の火山灰(350g/m²)。黒い斑点は降雨による雨滴痕。



(c) 西部林道, 川原付近の火山灰の堆積(514g/m²)。中川正二郎氏撮影



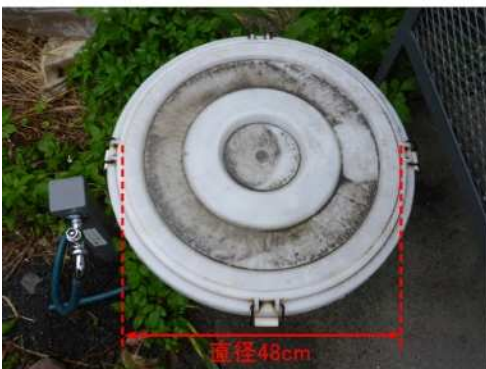
(d) 西部林道, 大川の滝付近の橋の欄干に堆積した火山灰。中川正二郎氏撮影



(e) 栗生港(>12.5g/m²)周辺の葉に堆積した火山灰。



(f) 栗生集落の駐車車両上に堆積した火山灰(20g/m²程度?)。中川正二郎氏撮影



(g) 恋泊バス停脇のごみ収集用ポリバケツのふた。雨水とともに火山灰が残存している(>17g/m²)。



(h) 淀川登山口の駐車車両上に堆積した火山灰(100g/m²弱程度?)。廣瀬 望氏撮影

第2図. 火山灰の堆積状況の写真

図中の(a)~(h)は第1図の(a)~(h)に対応する。